

# 波郷 記念館 だより

第53号

発行日 令和3年9月25日

江東区砂町文化センター  
〒136-0073  
東京都江東区北砂  
5-1-7  
電話 03(3640)1751

砂町文化センターでは、毎年、石田波郷（はきょう）記念館企画展を開催しています。今年は「石田波郷の生の証『惜命（しやくみょう）』〜今生は病む生なりき〜」というテーマで、波郷の療養生活と俳句創作、また、俳文学史における「療養俳句」について展示します。そこで「波郷記念館だより」では、第52号に続き、それらに関連する内容をご紹介します。

企画展は、二〇二二年十一月十六日（火）から十二月三日（金）、砂町文化センター二階展示ロビーで開催します。

## 石田波郷の俳句

石田波郷は、昭和時代を代表する俳人です。大正二年

（一九一三）、現在の松山市に生まれました。五十嵐古郷（い  
かざきこきょう）のもとで句作に励み、昭和七年（一九三二）、  
古郷の紹介で東京に上京、水原秋櫻子（しゅうおうし）に師事し  
ました。秋櫻子は、思想性や社会性を掲げて俳句の近代的  
革新を目指した俳人です。

波郷は、昭和十二年、二十四歳の時に「鶴」を創刊、主  
宰となります。そして「人間探求派」「難解派」「人生派」  
と呼ばれるような新たな方向性の句を作るようになります。

波郷の詠んだ俳句のなかに「焦土諷詠」「療養俳句」と  
呼ばれる作品があります。前者は戦後の東京（北砂町）と  
いう歴史や地域社会、後者は結核という、より個人的な問  
題を、俳句に詠み込んでいます。今回の企画展では「療養  
俳句」の金字塔ともされる句集『惜命』について、波郷の  
生きた時代や地域、句作の場を含めてご紹介します。

## 句集『惜命』

『惜命』は、昭和二十五年、作品社より刊行された、波  
郷の代表句集です。昭和二十二年秋から二十五年二月まで  
の五〇六句を収録しています。収録作品の作句は、波郷が、

戦後の北砂町（現在の東京都江東区北砂）に移り住み、結核再発のため清瀨の療養所で手術を受けた時期です。

句集としての特徴は、

四季別ではなく、制作順の

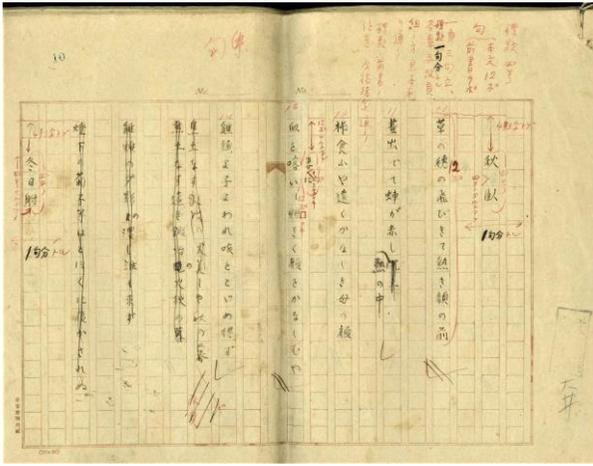
配列で、タイトルをつけた

章ごとになっていることです。

また、サイズが枡形本

という正方形に近い形であることもあげられます。

原稿（画像左）は、『惜命』の「秋臥」の部分です。波郷の直筆です。書き込みや修正の跡から推敲の過程を知ることができる貴重な資料です。



▲『惜命』波郷自筆原稿



▲『惜命』

秋臥

「草の穂の…」

「晝出でて…」

「柿食ふや…」

「血を嗜いて…」

「鶏頭よ…」

（「焦土なす…」他

四句削除）

冬日射

石田あき子『見舞籠』

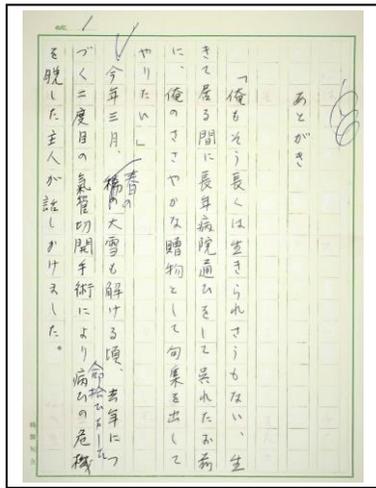
妻に

水仙花三年病めども我等若し

句集『惜命』の最後に収められている句です。

「妻」とはあき子夫人です。あき子夫人は、波郷のお見舞いのため、北砂町（現・江東区北砂）の自宅と清瀨の療養所を二時間半以上をかけて往復しました。

『見舞籠』は、波郷が、あき子夫人へのお礼に出版したあき子夫人の作品句集です。選句、句集題、装幀は波郷が手がけました。昭和四十四年、波郷没後に刊行されています。夫人は、本句集で第十回俳人協会賞を受賞しました。



▲『見舞籠』波郷自筆原稿

あとがき

「俺もそう長くは生きられない。生きて居る間に長年病院通ひをして呉れたお前に、俺のささやかな贈物として句集を出してやりたい」...

# 砂町文化センターニュース VOL.53

## 第21回

### 石田波郷記念「はこべら」俳句大会 作品募集中

砂町を「第二の故郷」と呼び愛した、昭和を代表する俳人・石田波郷を顕彰する「はこべら」俳句大会を開催します。

今年度から新たに、今年のテーマ句でも募集しています。  
今年のテーマ句は、兼題「石」です（下記をご参照ください）。

- 投句 二句一組（何組でも可。未発表作品に限ります。）
- ・「波郷を偲ぶ句」、または今年のテーマ句（兼題「石」）より一句
  - ・雑詠一句

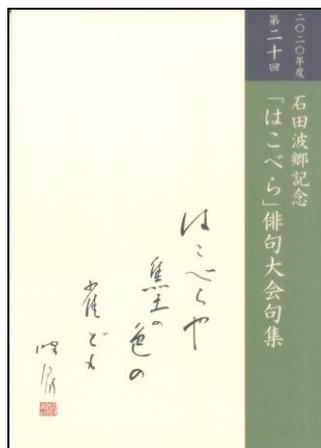
- 選者 上田日差し・岸本尚毅・鈴木しげを・徳田千鶴子・能村研三  
(五十音順)

- 賞 石田波郷記念「はこべら」賞 一名  
石田波郷記念館賞 一名  
各選者による特選三句、入選十句

- 投句料 二句一組 1,000円

- 大会句集 授賞式までに、投句者全員に送付。  
句集には、投句いただいた作品をすべて掲載いたします。

- 締切 12月10日（金）必着



▲第20回大会句集

※詳細は、江東区内各文化センター、総合区民センター、芭蕉記念館で配布の「投句用紙・募集要項」またはホームページをご覧ください。  
砂町文化センターへお電話ください。

# 「俳句実作講座～「実作力」を身につけよう!～」

受講生募集中（キャンセル待ち受付中）

「実作」「句会」「吟行」をとおして、上達するための技法を学びます。  
俳句を学びなおしてみたい人も大歓迎。

■講師 鈴木しげを（「鶴」主宰）

■日程

10月30日(土)	俳句の基礎知識を学ぶ
11月27日(土)	俳句指導・句会
12月18日(土)	俳句指導・句会
1月29日(土)	俳句指導・句会
2月26日(土)	吟行(砂町界隈を予定)

■時間

13時30分～16時

■会場 砂町文化センター

■定員 20名

■受講料・教材費

7,500円・500円

## 砂町で 吟行&句会 を開いてみませんか

### 【施設のご案内】～句会に～

砂町文化センターでは、「会議室」などをお貸出ししております（有料）。  
センターには、「石田波郷記念館」、「砂町図書館」が併設されています。  
図書館には「俳句関連図書コーナー」もあります。

### 【周辺のご案内】～吟行に～

文化センターの周辺には、石田波郷も歩いた妙久（みょうきゅう）寺や志演（しのぶ）尊空神社、JR貨物小名木川（おなぎがわ）線などがあります。  
また、小名木川や仙台堀川公園、江戸時代に建てられた旧大石家住宅（江東区指定文化財）など散策をお楽しみいただけます。

### 【会議室を利用するには】

3か月前の3日午後1時から、お電話で予約をお受け付けいたします。

（例えば、4月3日午後1時から、7月分の受付を開始します。）

詳しくは、砂町文化センターホームページをご覧くださいか、お電話にてお気軽にお問い合わせください。